

「人間にとって最高の存在は人間である」―「GNP」から「GNH」へ―

秋 岡 美登恵

独立行政法人国立病院機構 九州医療センター
企画課 医療情報管理係長

「人間にとって最高の存在は人間である」。誰が言ったのかは忘れましたが、この言葉は万人が肝に銘じなければならぬものであり、とりわけ我々診療情報管理士をはじめ医療の分野に携わる人はなおさら深く胸に刻まなければならない言葉だと思います。なぜなら、医療は直接人間に関わり、人間が生きていく上で根底となる健康や命を支えるものだからです。しかし、悲しいことに現実には、バブル経済とその崩壊を経験したにもかかわらず、日本の社会全体に「人間にとって最高の存在は金である」という拝金主義・拝物主義が再び蔓延してきています。市場原理＝競争主義・効率主義の名のもと、コスト管理が人間よりも何よりも第一義的に優先され、その結果ワーキングプア、ネットカフェ難民、医療難民、自殺・過労死の増加等々挙げれば切りがないほどの様々な非人間的な現象が生じています。これがGNPが世界第二位だ、経済大国だと言われる国の姿なのでしょう。本当の豊かさとか幸せからは程遠い現状だと感じているのは決して私だけではないでしょう。

こんなことを考えている時、ちょうど最近の新聞の連載で「ブータン」という国のことを知りました。連載によれば、ブータンは王制なのですが、前国王が既に1976年に「国民総幸福（GNH）は国民総生産（GNP）よりも重要だ」と提唱したのです。つまり、物質的な豊かさを否定する訳ではないが、経済一辺倒の発展＝GNPの増加よりも心の豊かさを優先し、すべての国民の幸せを増加させることを国の目標とするGNHという哲学を国是としたのです。何と素晴らしいことでしょう。そして、2005年に実施された国勢調査の末尾に添えられた質問に、何とブータン国民の97%が「はい、幸せです。」と答えたのです。このことに関して、現地紙は「我々は幸せな人々の国であるようだ」と論評したそうです。何と羨ましいことでしょう。さらに、今ブータンは民主化を目指し国造りの最中であり、そのために憲法の制定や総選挙の実施を準備しています。そして、国の根幹を規定する憲法に関して言えば、来年制定される予定の憲法草案では、前文で憲法制定の最大の目的を「人々の幸せと福祉を第一に考えること」と明記し、さらに第9条には「国はGNHを高めるために努力する」と書き込まれるという。総選挙で当選すれば首相候補になると目されているジグメ氏は言う、「武力で国を守るのは間違っている。大事なのは人々の満足度の高さ、格差を感じない心の幸せだ。本当の強さとは一時的な物質的、軍事的強さではなく、精神的強さだ」と。

人間が人間として本当に大切にされる社会の実現、そして人間をはじめとするあらゆる生命の源である地球の環境保全（―ちなみに、ブータンの憲法草案では第5条に独立した「環境」の条文があり、その中で「政府は、国土の最低60%が常に森林に覆われていることを保証する」と規定されている―）こそは、今そこにある危機として一刻の猶予もなく早急に真剣に考え解決されなければならない人類の課題なのです。最後に私の大好きなサン・テグジュペリの『星の王子さま』より一言。ちいさな王子さまは言いました。「ほんとうに大切なものは、目ではなにも見えな

いんだ。心でさがさなくちゃ」って。